

高石市から大阪、
日本の未来を考える！
高石市議会
令和3年度
第1回定例会報告

NEWS vol.38

松本 よしひろ

高石市東羽衣3丁目15-16 Tel 072-247-8927
高石市議会議員 松本善弘（高志会所属）です。

高石駅・羽衣駅駅周辺開発について

高石市議会議員
松本善弘（高志会所属）です。
令和3年3月議会（2月25日～3月12日）
の報告をさせていただきます。

令和3年予算規模 一般会計 263億138万円。

代表的なものとして、

新型コロナウイルスワクチン接種事業	5億7944万円
孤立ゼロプロジェクト事業	3000万円
乳幼児すこやか見守り支援事業	1190万円
南海本線・高師浜線連続立体交差事業	5億9240万円
老人福祉センター(瑞松苑)移設事業	2億7418万円
高石市リノベーションまちづくり推進事業	1億1860万円
高石駅周辺整備基本計画策定事業	3250万円
羽衣駅周辺整備基本構想策定事業	1500万円
高師浜総合運動施設管理棟等実施設計事業	1750万円
南海中央線整備事業	4億2153万円
蓮池公園整備事業	4億619万円

令和3年度は、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、市税収入が大きく減少する厳しい状況です。

その中で、ワクチン接種含めたコロナ対策含め、防災、福祉、教育、駅周辺の活性化策等、様々な行政課題に対応した予算となっています。

財政の状況をよく鑑みながら、将来にわたって財政的な負担が残らない事業実施を望みつつ、しっかりと行財政改革を進めていきながら、市民のサービスの向上など成果の出る事業へとより精査していただくことを強く要望しました。



DEVELOPMENT 高石駅・羽衣駅周辺 開発について



高石駅の開発

高石駅周辺は長年、平面鉄道により東西のまちが分断されてきました。そのため、土地利用が一体化されず東西のにぎわいに偏りが見られ、互いを行き交うには踏切を横断するしかなく、まちの一体性・利便性・安全性の確保が課題とされています。



● 高石駅周辺整備事業基本計画の内容について

連続立体交差事業の進捗により、令和3年5月の南海本線上下線の高架化完成に伴い、高石駅中心部に設置される自由通路により、現在分断されている東西の商業圏が繋がることで、高石駅周辺の商業の活性化をはじめ賑わいの創出が期待されます。

高架下空間に魅力的な商業施設やにぎわい・多世代交流の拠点となる公共機会の場にリニューアルすること、また、駅南側の民有地を含めた活用や、駅周辺の商業の活性化及び周辺施設との連携しポストコロナを踏まえ検討しています。

● 高石駅前広場について

居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成する取り組みの一つとして、これまで“健幸ウォーキング&マルシェ”や“防犯キャンペーン”等の市民イベント等で年間を通じて活用してきたアプラ前の駅前広場の芝生化と共に、イベントや交流機会の場とするリニューアル等々、検討を進めて参りたいと考えています。

● 高石駅前の基幹施設である、アプラたかいしのリブランディング工事

本年で19年目を迎えるアプラたかいしも、昨年12月から1階商業施設のリニューアルを進めており、図書館や市民文化ホール・HUGOOD等の“地域資源と繋がるリブランディング事業”の第1期として、昨今の消費の動向が“モノ消費”から“コト消費”に変化する中、商業施設を全面リニューアルが完成しました。

現在、“リブランディング事業”の第2期として、アプラたかいし2階商業施設についてリニューアルを進め8月初旬オープンに向けて、「居場所」や「地域コミュニティ」に特化した施設構成としており、商業施設に加えて“一般市民に広く開放される多世代交流空間の整備”、シェアキッチン・親子の遊び場・ワーキングスペース・パーティールームを整備すると共に、ワークショップや生涯学習などを開催するなど、多世代の居場所を提供することで集客を促されている。

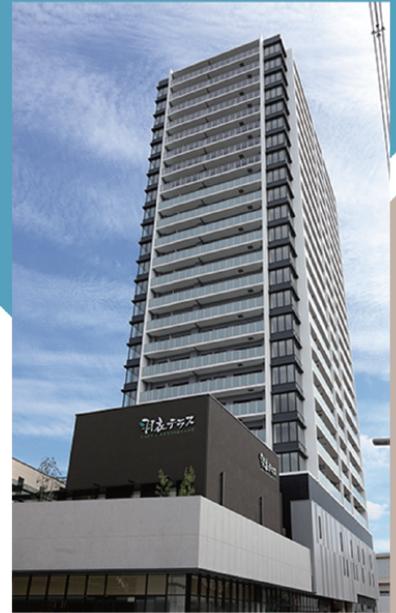


羽衣駅の開発と ペDESTリアンデッキ

羽衣駅は、2019年8月に「イコーネはごろも」と南海本線羽衣駅とJR東羽衣駅を結ぶペDESTリアンデッキ「天女のこみち」が完成しました。

本年5月に完成する南海本線上り線高架切替により、羽衣駅の上り線の改札口は、現在中層階にある下り線の改札口に統一されると共に、改札口を出て降りた地上レベルに自由通路が設置されることで東西の往来が可能となります。

改札口が統一され、上り線の乗降客もペDESTリアンデッキを利用されるようになることで、利用者が格段に増加するものと考えております。



令和3年度の予算 羽衣駅周辺整備基本構想策定事業について

新型コロナウイルス感染拡大に伴うテレワークの普及等が喫緊の課題となる中で、大阪市内・関空へのアクセスの利便性に優れる羽衣駅周辺においても、JR東羽衣駅北用地を活用し、テレワーク施設等の導入などを含めた地方創生の拠点づくりに向けて、まちづくりとしての基本構想を策定するものです。

まちの活性化には、北ヤードと駅周辺の連携は重要であると考えており、構想の対象範囲に駅周辺を含めた形で検討していきます。

羽衣駅の開発について、高石駅との連携、違いについて

羽衣駅周辺エリアでは、地域の魅力を高め、人を惹きつける地域づくりを推進し、文教地区としての特性や浜寺公園の自然、急行停車駅で交通結節点といった利便性のよさなどの特色を活かし、民間企業や学校、市民の方々の拠点となるまちづくりを検討していきます。

南海高架下の完成と共に、高石駅と羽衣駅の特性を最大限生かした開発を今後とも推進して参ります。



COVID-19 MEASURES コロナウィルス対策

日本の経済が崩壊してしまう

–コロナウィルスは、2種の指定感染症を一刻も早く解除すべき–

コロナの感染爆発から1年以上が経った。今や感染者数は全世界で約1億5700万人となり、死者数は328万人を超えた(5月11日時点)。感染の波は第三波・第四波に突入し、4月25日に発令された緊急事態宣言も延長されていくがその出口は見えない。

☆今のままでは、日本の経済が崩壊してしまう

緊急事態宣言の理由として「医療崩壊」と「宣言解除後に感染者が増えた」ことを挙げているが、宣言による自粛で感染が抑え込めるという確固たるデータは見当たらない。今のままでは本当に多くの業界(鉄道・航空・旅行・ホテル・飲食・百貨店等)をつぶしてしまう。

☆令和2年(2020)の日本人の死者数は135万人で例年よりも2万人減少

令和2年度は、インフルエンザの罹患者が激減したのが原因です。つまり、令和2年はコロナ禍による安全対策により、例年よりも安全であったともいえる。政府は、新型コロナ対策を打つ際も、もう少し客観的な数字を見て判断すべきです。(例年、日本ではインフルエンザ関連死が約1万人。肺炎関連死が約10万人。令和2年度のコロナ関連死は約8000人。)

☆責任を伴う自由は行使されるべき

新型コロナウィルスに対しては、「免疫力が弱い方」を集中的にケアする必要があると共に、若年層や働き盛りの世代はリスクが低いので、むやみに社会活動を抑えず、感染予防策を講じて、経済活動させる自由を与えるべきです。自由には責任が伴います。コロナ対策をしている店もしていない店もすべて営業自粛、酒販売禁止等は乱暴なやり方です。

☆今後コロナ患者は、変異ウィルスもあり、まだまだ増加すると予想

コロナに感染して治る人も、亡くなられる人もいるのは事実ですが、そもそも仕事をしなければ、全ての人は生きてはいけない。これ以上の自粛により、商売や経営が成り立たないことによる影響は計り知れない。

☆コロナウィルスは、2種の指定感染症を一刻も早く解除すべき

今回のコロナ騒動で、医療崩壊が危惧されたのは、「2種の指定感染症」にしているのが原因と考えます。現時点でのウィルス特性を総合的に判断すると、早急に「2種の指定感染症」から格下げして、インフルエンザと同様の対応をしていくべきです。これが多くの難問を解く糸口になります。

////////// 松本 よしひろ プロフィール  //////////

2011年4月初当選、3期目。

妻、2男1女の5人家族

高石市第十区子供会会長、高石市第十区奉賛会会長、東羽衣小学校PTA会長、

高石市こども会育成協議会会計、アプラたかいし商店街理事長兼販促部長、

アプラホール実行委員会委員、高石商工会議所青年部所属